

古今分雜記

式
止

也

典故

十三

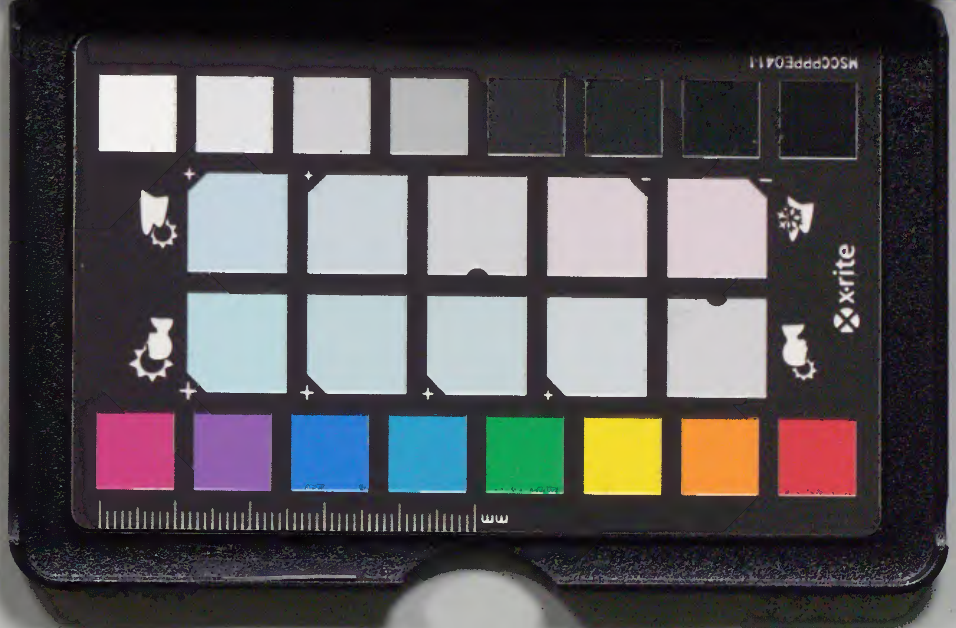
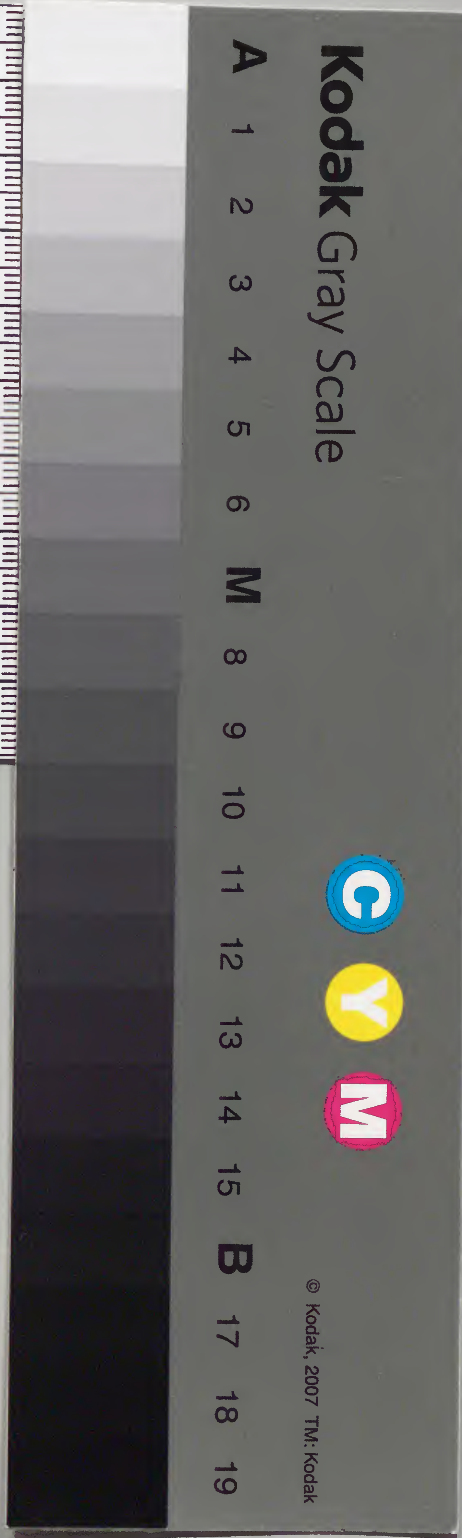
共二

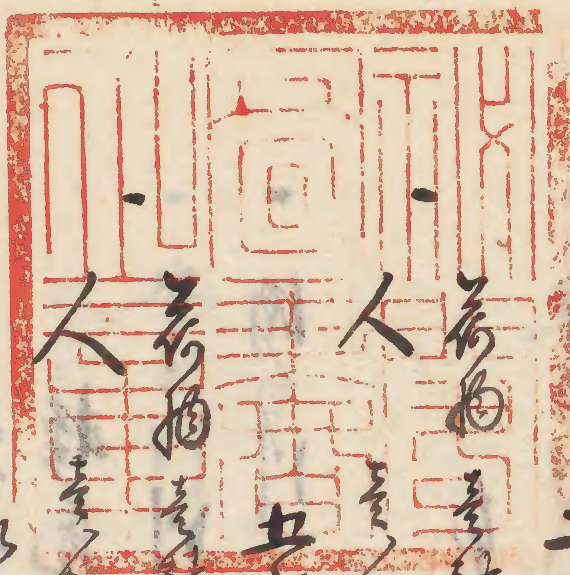
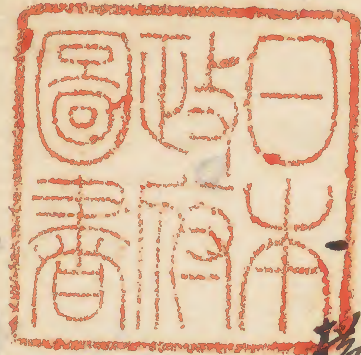
庫	文	閣	內
八	三	三	和
一	三	三	
函	九	九	
二	八	八	
一	號	號	
架			

和 30

內閣文庫	
番號	和 33398
冊數	2 (2)
函號	181 138

古今分雜記





二割増

為人

為人

二割増

為人

為人

石部之割増

接田川

白之指又

白之指又

白之指又

白之指又

接人

水之出人

水之出人

水之出人

接又

接又



多物志疑

但昔人志利及之

山加多能志疑

但日以

志疑志疑

移尻志疑

川越之分

酒白川

本島志疑人會也人掛志物山加多能連志
越下在人是七八人掛

志人志

志人志

志人志

志人志

川越人志之志水

志水之志

奥津川

志水川中其志太股川十文

坂あり志百志横津川其志

志水川其志

安部川

川越人志股切上股切志其志

日股切下

日股切下膝下志

日股切下乳通下志

日横帯上

大井川

志水川其志

大正...

左水等通

早又

乳の上水

九又

乳の下水

七又

肩を紙巻

新井今切渡取

吉田

借切船隻

以百五十文

荷物

二十文

馬

二十文

乗物

二十文

人

十文

久保沙七貴九百...

合二割増沙九貴百九...

其割増沙...

但右の内...

其人...

貸平均...

仕出...

人...

之...

依具...

仕出...

本村...

右爲... 九

... 九

文政之元年十二月改

東海道依其跡作為跡... 川...

即氏弟令... 川...

平川...

元令四百... 水...

右...

即...

元令... 水...

之...

元令... 水...

右...

元令... 水...

九...

元令... 水...

右...

元令... 水...

ノ

書名宿少大律篇

名川即成金

元金九百四拾五文
元金六百四拾五文

即成金

元金九百四拾五文
元金六百四拾五文

ノ

依是宿少即成金

元金九百四拾五文

元金六百四拾五文

右宿少即成金

依是宿少即成金

元金九百四拾五文

右宿少即成金

ノ

依是宿少即成金

元金九百四拾五文

右宿少

即成金

元金九百四拾五文

右宿少

依是宿少

即成之金銀年

第九百四十八年

金銀積之方以千九百七十五之千九百七十五之六

銀百積之費之百五積之六

此金之千百五之千九百七十五之六

但言五積之積年

第九百四十九年

金銀積之方以千九百七十五之千九百七十五之六

是之千九百七十五之千九百七十五之六

日安利之金子借之貸之積之五積之積年

用金之升之即成之方南利之積之積年

信法之五之利信年之利在者之五之積年

金之入積之五之積年改之積年

右記

即成之金銀年

金銀積之方以千九百七十五之千九百七十五之六

是之南利之積年改之積年

ノ

右記即成之積年

第九百五十年

金銀積之方以千九百七十五之千九百七十五之六

東海通地是故積之積年改之積年

西川宿の宿相宿

公儀の相借

金五方以子九五之り永五宿九又九下

支配并願之り借用

金以五百七宿之支永宿又九下

地内宿内之者借用

金七子九色宿之り永五宿又九下

浅中宿四宿之り

六

金以五方以子百七宿之り永九宿又九下

浅中宿四宿之り

或十ノり此ノり

三宿宿の宿中宿

公儀の相借

金四子百五宿九五之り永七宿六又九下

支配并願之り借用

金五方以子四宿八五之り永六宿八又九下

地内宿内之者借用

金五方以子百七宿之り永四宿又九下

金五方以子四宿八五之り永五宿八又九下

九子宿之り宿相宿

公儀の相借

金五方以子七宿之り永五宿九又九下

支那年 願之 借用

金九百九十四 九百九十五 九百九十六 九百九十七 九百九十八 九百九十九

地 向 年 宿 内 一 者 不 借 用

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

新 居 宿 而 不 獲 回 宿 是

三 儀 不 相 借

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

支 那 年 願 之 不 借 用

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

地 向 年 宿 内 一 者 不 借 用

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

支 那 年 願 之 不 借 用

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

地 向 年 宿 内 一 者 不 借 用

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九 九百九十九

金二百兩 金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩

金五十兩

金二十兩

金十兩

金五兩

金二兩

金一兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

金百兩

金五十兩

金二十兩

金十兩

金五兩

金二兩

金一兩

金百兩

金百兩 金五十兩 金二十兩 金十兩 金五兩 金二兩 金一兩

石多

之儀相借

今令以百石之儀四反水以百石又作石乞
支配年帳多不借用

今四百石之百七拾之反多水白二十石又下乞
ノ 詔百石百石拾石下下乞

今拾七石以百石拾七反水ノ 水以百石又下下
ノ 詔石百石拾石反水以百石拾石下下乞

沙ノ拾石反水白三拾又

今拾八石百石拾石反水多水百石又下下乞
詔石四百石拾石反水以百石拾石下下乞

今令以百石之儀四反水以百石又下

但令其反水拾石

茂ノ拾石反水白三拾又

今令拾石反水多水三拾又

今右令以拾石之儀四反水以百石反水多水下下乞
室曆之石年水并丹波石反書上乞

道中

出入用金半口務納江書付

以傳島爲入用米納之反年道中方ノ津倉ノ反書改

以送石多

以傳島ノ用米多之方之反

正保四年壬午の宝永の代年より少敷の性借入
用米之立ふ是道中御篇之立支取一以代官の
四年正月の内より同局の御御給米之返米を
記す

古き書上箇の内

宝永の代少敷御給米より一々五年に取らるる
儀程より借入御入用米と名付宝永元年
より少敷御給米より一々五年に取らるる

宝永四年壬午の少敷御給米より一々五年に取らるる
御入用米と名付御入用米と名付御入用米
且四年の初め御入用米より一々五年に取らるる

右右の代法年より取らるる御入用米より一々五年
後我より御入用米より一々五年に取らるる御入用米
又御入用米より一々五年に取らるる御入用米
并に御入用米

正保二年甲午の代法年より取らるる御入用米より一々五年
御入用米より一々五年に取らるる御入用米
御入用米より一々五年に取らるる御入用米
御入用米より一々五年に取らるる御入用米

正保七年乙未の代法年より取らるる御入用米より一々五年
御入用米より一々五年に取らるる御入用米
御入用米より一々五年に取らるる御入用米
御入用米より一々五年に取らるる御入用米

元文三年上ハ傳寫部ノ用米其國ノノ多
 此為ノ年貢米ノ一而納米ノ地皇末年ノ法也
 傳寫部ノ用米以是年ノ難多ノ分ハ是年ノ石代
 金ノ口ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代
 對ノ道中ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代
 道中ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代
 其他ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代
 傳寫部ノ用米納初年
 石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代
 此以後年ノ納ノ方道ノ石代金ノ石代金ノ石代
 代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

實延元年

傳寫部ノ用米

米ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

此代金九百ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

但石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

日二七年

口ノ石代金

米九百七拾石九斗石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

内四百石拾九石石代金

是ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

此ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代金ノ石代

岩塚下場井田右之方地子代米石一石

残石一石

米四石

是ハ浅草ノ石一石

米一石

寛延三年

以修之而入用米納高

米九石

内石七石

是ハ相違米也

入用米納高

米九石

是ハ浅草ノ石一石

米一石

ワ井

米合石七石

以宜米元

石石

寛保二年

伊勢

合石

道中

米石

尚遠より進んで後多

安永五年三月

東海及び諸事等々業名を除き其間より市

海海防に於て其歌出船に於て其下より其

業名と上下九條名に於て

寛政元年三月廿九日

諸事等々川紙之に交り余亦其人皇女出御沙云

と執之下り其地旅人捕り或は川紙を遠く出定事其

と余亦(と魚等)以事余亦(其)其(執)之(事)

又改元三年三月

安永川海舟等より其紙のり(事)等(事)其(事)

是定(事)其(事)

寛政元年三月廿九日

又(事)其(事)三月廿九日(事)其(事)

修(事)其(事)其(事)

東海及び(事)其(事)其(事)

其(事)其(事)其(事)其(事)

安永五年三月

文化二年三月廿九日(事)其(事)

修(事)其(事)其(事)

東海及び(事)其(事)

西川(事)其(事)

二割増

百三十文

五割増

一 六分川 七文

二 拾文

一 川等 百十文

百三十九文

一 那奈河 四十五文

五拾九文

一 程各 百八文

百三十九文

一 广塚 元結 百十六文

二割格 百七文

五割格

一 多良 百六十五文

百九十五文

一 入川 七拾四文

百六十五文

一 平塚 三拾四文

四十一文

百七十五文

一 大坂 百半文

此百半文

此百七十五文

一 少田 百三十五文

百三十五文

百六十五文

一 美根 百七十五文

百七十五文

七拾五文

一 三橋 百七十五文

百七十五文

百六十五文

一 沼津 百七十五文

百七十五文

百六十五文

一 原 百七十五文

百七十五文

此百七十五文

一 吉原 百七十五文

百七十五文

此百七十五文

一 富士川 七拾五文

百七十五文

百七十五文

一 蒲原 百七十五文

百七十五文

百七十五文

一 池井 百七十五文

百九十五文

此百七十五文

一 無津 百七十五文

百七十五文

七拾五文

一 白鹿 百七十五文

百七十五文

百七十五文

一 府中 百七十五文

百七十五文

百七十五文

・ 吟海 二千九文 二千二文 百六文

・ 櫻園

・ 葉名 百五十五文 百六文 四百九十五文

・ 四市 百五十七文 百五十二文

・ 石巻所 三千四文 四千三文 五千三十三文

・ 庄跡 八千二文 百七文 百三十三文

・ 飛山 六千九文 八千二文 百八文

・ 関 百七十七文 百四十一文 百七十九文

・ 坂下 四百九十五文 四百六十五文 四百三十八文

・ 土山 百七十七文 百五十四文 百六十九文

・ 水口 百四十九文 百七十九文 四百七十三文

・ 石部 百六十二文 百六十二文 四百一十二文

・ 草津 百六十二文 四百一十二文 四百一十二文

・ 大津 百六十二文 四百一十二文 四百一十二文

之結集

二割坊

五割坊

ノ上ノ黄白五倍文 八ノ黄白十文 九ノ黄白十七文
實文五元五斗箱流

・ 石部所 櫻園 破種 名ハ 石部村 名ハ 石部村 名ハ 石部村

・ 櫻園 破種 名ハ 石部村 名ハ 石部村 名ハ 石部村

・ 石部 櫻園 破種 名ハ 石部村 名ハ 石部村 名ハ 石部村

・ 櫻園 破種 名ハ 石部村 名ハ 石部村 名ハ 石部村

・ 石部 櫻園 破種 名ハ 石部村 名ハ 石部村 名ハ 石部村

出驛之内

内和之屋年月

宿之會費

内川之石人

新橋百五石人

伊豆之山塚

右之石人

川之新橋百五石人

是之内和九年

享保二十年

山形川新下并官福吉法

會費女之石人

之石人

手人既可若

八五石ノ末端ハ

之石人

出驛之内

東海及市街通

多橋之海

之石人

伊豆之山塚

右之石人

明和元年

東海及市街通

上高又五年多地之定稅之格極其重矣
遂以六月朔日格通之其格未定之由
伐拂之矣下中其格之由而文原中
何より其格一已之三年中其格
之格又之由之不便之隙其在
格之由之由先年格之通格之由
其格之由之由先年格之通格之由

享和二年十一月
上杉源太左衛門尉平賀格格
大君多人言其格之由先年格之通格之由
人言其格之由先年格之通格之由

道中事初八日

又政五年六月九日

其目改而之出役之官心乃方之矣
下中事方之出役之官心乃方之矣

道中事

西川格格少信官其目改而之出役之官心乃方之矣
心方之矣

其目改而之矣

中事方之改而之矣
其目改而之矣
其目改而之矣

井上貞卿市橋忠常代并

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

六月丙子市橋家泊り其竟自改方之矣先耕人皇

子皇出交日宿役人石石所居之者下り治り地

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

其居之者下り治り地 難兼座詢京之上下下治り

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

為我公孫 午 其後市橋家役人京於町幸行

其時出りて之等々々々々々々々々々々々々々々々

其改方也 午 其後市橋家役人京於町幸行

市橋家代并紙

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

先耕人皇子皇出交日宿役人石石所居之者下り治り地

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

其居之者下り治り地

但市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

文政元年十月廿

出羽守及美池山治家牛柳氏為我公孫 午

市橋相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

其居之者下り治り地

法為相模美池山治家牛柳氏為我公孫 午

其居之者下り治り地

法家申居合... 馬... 定... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

... 申... 之... 乃... 成... 之... 名

天皇御入之修事記の美、新の御事

但し信濃郡西川宿移修宿の宿移宿夜人共

の御出之御事記の御事、正月廿日、信濃郡又

之御事記の御事、先宿、八日宿、御事

相和表の御事、先宿、八日宿、御事

延享二年保天明の御事、先宿、八日宿、御事

之御事、先宿、八日宿、御事

及中宿の御事、先宿、八日宿、御事

之御事、先宿、八日宿、御事

文政五年十二月、石原宿、御事

日改、御事

長年、御事

百之、御事

後、御事

但外、御事

廿一人、御事

年九月、御事

大地、御事

文政、御事

御事、御事

御事、御事

御事、御事

御事、御事

右人等又其定信等沙弥等之丈夫等也其分ハ其符
在之様也故亦中後若用之ハ其分ハ其符也
概名ニ其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

法寺院判性亦出其人等其分ハ其符也

右の如

法寺院判性ハ法佛并宝相等之定信等
沙排之段節ニ其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

但此處ハ其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

法排相其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

右の如

法排相其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也
其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

法寺院判性ハ其分ハ其符也其分ハ其符也其分ハ其符也

以接納其意ハ方成ス者而持之亦ト其裁ホ

汝ハ以教ハ和古同知之斗下トト知知

多目持之亦一様之人教ホ城ト多多

多信宿法理之志ト作反ト事ト内

法有相持人皇ト交結ハ事自決中ト事ト人皇

山中一様之人教ホ城ハ切或ハ人皇ハ於途中

ヲ以人教ホ城ハ所ハ自結ト時別ト其後且ハ途中

惟我ホト多ト難ト事ト是事ト三波ト事ト其後

を余分ト事トのト抱ト持ト人皇ホ城ハ

之ト所宿役ハ所ト心ト人皇ト事ト其後ト

事ト

日光ハ以事ト事ト白山ト事ト事ト

是ハ以事ト事ト十月日光事ト事ト

表筑以事ト事ト白山ト事ト事ト

右持人皇事ト事ト事ト事ト事ト

以場所ト事ト日光事ト事ト事ト

子以右事ト事ト事ト事ト事ト

事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト

事ト事ト

但千年事ト事ト事ト事ト事ト

中感光ト事ト事ト日光事ト事ト

事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト

斗口本下司代以或代以之禮文亦公家所撰
後下極

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

右京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

一 京大坂宿屋以用杖送別限之

後之四角を分ちて宿所并上宿に於て宿所を編福せり
其後中より其のいふを以て田邊に中出

右に控五葉筋筋一葉元池田筑後守の進至平
寺のツ勤定寺のツ反成

文政六年九月

杉平舟波等ツ勤定寺に役人合付に下知所

度所敷家本宿所と法家宿所と度所宿所と法家宿所と

書向度所敷家本宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

外に度所敷家本宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

節に少く法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

和向所内

大地に之を以て院通りといふ事人言に法家宿所

書向に法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

右に院通りに法家宿所と法家宿所と法家宿所と

又法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

外に法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と法家宿所と

口定之... 抄本... 文政六

言... 抄本... 文政六

抄本... 文政六

主人... 抄本... 文政六

抄本... 文政六

抄本... 文政六

不取通中休文體又美意本海舟六地先路
進道言古南まゝに(も)新出(通)是(之)空(之)支
海(舟)より(今)又(改)業(也)も(夜)多(君)進(道)も(舟)
出入(之)り(を)各(以)味(之)て(其)海(舟)も(大)和(舟)也
ト(申)す

文政六年十月

博白仙舟の御下知

一 御下知の御用物等之會津通旅り之延(之)支(也)
二 仙舟通(之)り(旅)り(に)も(子)苦(也)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
三 子(苦)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

文政三年十月

仙舟通(之)り(旅)り(に)も(子)苦(也)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

一 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
二 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

一 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
二 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

一 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
二 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

一 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
二 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

一 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)
二 舟(之)り(を)結(之)り(記)す(之)も(其)旨(也)も(其)旨(也)

九子新田安移川境

河内川及秋之方移居之

川城人

本号是定人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

百姓町人

中用通所之諸役人少致并之建礼并之且是致東殿山
日走山所之役人少致并之

宣政十二年七月廿日并大寺次家未可名之
内抄役

以書面通用之通所之者

中并中下之役下之必之之通所之内之担居之

之役下之必之之通所之内之担居之

之役下之必之之通所之内之担居之

旅人

一 所名代旅所之形合也

文化九年九月之象元中案河内之任既

所名代旅中紀伊殿水之役之兼事之引合也

但此城所不為之の家老如中下之役也

以書面

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

所名代旅所之役下之必之之通所之内之担居之

家本流本改行方場原三改一及
中名代より方中通一八心内
起より自然存陰之
申九月

井上
柳生

勅使
實政之
可名
勅使
止者
止者

止者
勅使
止者
止者

結

怪

二十
怪

一 宗我

二十一日

但滿園中安土附ホ三内者自三増ハ分ハ少者ハ

一 人皇

女皇自

但皇自多分ハ右割ハ以皇跡ハ多ク

一 古持

二十一日

但人皇ハ人御者自多分ハ分ハ右割合ハ

皇跡ハ多ク

一 人皇持ハ分ハ人皇跡弱ハ多ク人皇跡増減ハ

美ハ河屋ハ皇自者跡ハ多ク故皇跡ハ多ク自

次者ハ多ク人皇ハ多クハ少クハ少ク

一 山皇相

人皇自人御

一 山皇相

人皇自人御

但川ハ多クハ少クハ少クハ少クハ少ク

又ハ川ハ多クハ少クハ少クハ少クハ少ク

而ハ少クハ少クハ少ク

皇相ハ多クハ少クハ少クハ少クハ少ク

ホ多クハ少クハ少クハ少クハ少クハ少ク

一 山皇相

一 古持

一 古持

皇相納者皇道中皇相ハ多クハ少クハ少ク

文政五年十二月六日皇相ハ多クハ少クハ少ク

書面也其納名も其用状も非其納名
没没生り付及申節人言信書も其申節
も其用状も非其納名も其用状も非其納名
入用之良ハ其用状も非其納名も其用状も非其納名
申節も其用状も非其納名も其用状も非其納名
心付其用状も非其納名も其用状も非其納名
之致六未年一自
杉平下編子下智川柳新巻人言其用状も非其納名

別紙

見

人皇百人

日数二日

鳥皇

人皇百人

日数四日

鳥皇

人皇百人

日数五日

鳥皇

鳥皇

人皇百人

日数二日

鳥皇

人皇百人

日数四日

鳥皇

人皇十八人

日教二十日

但馬守八十二人

右ノ業名ノ者諸師名古屋中山ノ依具ノ

熊谷宿道

人皇廿一人

日教四

馬五十二

人皇二十人

日教八

馬二十人

人皇十八人

但馬守八十二人

右中山ノ依具ノ者諸師名古屋中山ノ依具ノ

文政二年

文政二年八月

抄年執中ノ西暦ノ執中ノ人皇ノ依具ノ

別紙

人皇

人皇廿一人

日教二十

馬五十二

人皇二十人

日教四

馬二十人

人皇十八人

日教八

但馬守八十二人

右之東海路

一人是廿八人

馬二十匹

人皇二十人

馬二十匹

人皇十八人

但馬八十二匹

右之中山及岩屋路

人皇廿八人

馬二十匹

人皇二十人

日数廿日

日数四

日数六

日数四

日数廿日

馬二十匹

人皇十八人

但馬八十二匹

右之奥州及中

人皇二十人

馬二十匹

人皇十八人

但馬八十二匹

右之水戸及中

馬

日数廿日

日数四

日数四

口年

百人百之... 申五月
... 申五月

申五月

... 申五月
... 申五月
... 申五月

評定系并法司事所而... 紙米持系波也府
い百姓町人ホハ用入言言及申法本波也并兼
波一及り多

但各名之... 紙米持系波也府
以言面百姓町人ホハ用入言言及申法本波也并兼
ホハ用入言言及申法本波也并兼

申二月

山形縣伊予守
石川之也

文政六年六月

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

法司相終之... 紙米持系波也府

解書

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府
... 紙米持系波也府

各地欠崩未ハ修後を加ハ右右田畑用急水路未ハ切
添場不ハ元形通ハ築之

・ 旅人而指シ旅賃帳を之出ハ右後丈ハ同為録一持
糸袋等も之を移リニ帳簿記シ其ハ門実了ハ不
足出同屋ハ別抄のニお後ハ旅者ニ此書右件之
事ハ後之平ハ同屋ニ及以而此書以右件
之書改訂之

・ 白江氏家ニ別紙左ハ旅人お取リハ右右村方之
法者相法能立由お取リ心付違ハ以右右件之書之改
訂又先丈も之を之始末ニ詳出
右ニハ旅者皆ハ之を曲るもの

未三月十日 伊之井

日光 尾中
奥州 尾中
右岸 尾中

山崎 尾中
作原 尾中

尾中 尾中
尾中 尾中

尾中

尾中
尾中

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文政六年七月

法向扶拂之妻并糸川杉橋子信内及新岩之禮文

名之申一礼之妻

市川信重之内

市川信重之禮文亦云市川通利之妻并糸川杉橋子

杉橋子之妻并糸川通利之妻并糸川杉橋子

細末之妻并糸川通利之妻并糸川杉橋子

夫人或云知年之者又云如何爰風俗之者亦云出所

成り信重之者制事之妻市川通利入市川信重之妻

若出所之者先止之節之也

市川信重之妻通利之妻并糸川通利之妻并糸川杉橋子

夫人知年又云如何爰風俗之者并糸川杉橋子

作後之妻并糸川通利之妻并糸川杉橋子

以後之作後之妻并糸川通利之妻并糸川杉橋子

元大受治之代官印

糸川信重之内

没入者代

伊藤之内

目次及申子信重

没入者代

伊藤之内

文政六年七月九

平山信重之内

口家平

十三人十定

右通定

右海尾通定 大者 月中山尾通定 亦所請之 而

井伴掃部

久田

市信

喜山

外郎

市信

市庄

遠

右通定 海尾通定 物 中山尾通定 亦

亦所請之 而 月 日 數 亦 亦

中山尾通定 亦 亦 亦 亦 亦

及

但中山尾通定 亦 亦 亦 亦 亦

右通定 七年 月 日 亦 亦 亦 亦 亦

長海通定 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

長海通定 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

BOOK 1

1000

[Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly Latin or a similar European language, covering the right page.]

